



2. まちづくりの目標

◆医療環境の充実

湖南省では公立甲賀病院および公立診療所、民間医療機関が連携し地域の医療環境の充実に取り組んでいます。

在宅医療・在宅福祉など医療と介護の連携による地域包括ケアの充実を図ります。

健康に関する正しい情報提供や定期的な健康診断を受診しやすい環境づくり、疾病予防に関する取組や医療環境の充実を図ります。

◆持続可能な地域共生社会の実現

医療・福祉・介護などの需要はますます大きくなり、求められるサービスの質も高度化しています。湖南省では、4箇所の地域包括支援センターに保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の3職種を配置して機能を強化しています。職員の地域での活動が少しずつ認知され、各センターにおける相談件数は年々増えています。

小規模多機能自治を支える中心的な相談機関である地域包括支援センターの人財の確保・育成に取り組むとともに、待遇の見直しなど、将来にわたって持続可能な地域共生社会の実現に取り組めます。

政策テーマ4-3：防災減災

◆危機管理体制の強化

気候変動によって土砂崩れや水災害が激甚化、頻発化する状況にあります。また、南海トラフ巨大地震はいつ起きてもおかしくない状況です。

災害の予防・減災対策、応急・復旧対策など、市民の暮らしと安全を守り協働の防災対策を推進するための「セーフティコナン推進」を図るため、災害発生時に災害対策本部となる庁舎の防災性の確保や、地域の身近な指定避難場所の機能充実など危機管理体制を確立・強化します。

地域組織や避難時に配慮が必要な人が利用する施設の管理者などに対して防災対策の周知徹底や支援を行い、災害発生時にはデジタルツールを用いて必要な情報を効果的に発信するなど、災害に強いまちづくりを進めます。



災害対策本部



●まちづくりの目標5

いきいきとした暮らしをつくろう

～市民文化を築き、育み、伝えるまちづくり～

社会経済情勢の変化や技術革新は目覚ましく、社会が求める人財も絶えず変化しています。湖南省では2023年度（令和5年度）から、市内小中学校がICTの積極活用を進める「リーディングDXスクール」に指定され、デジタル技術を駆使した教育を展開しています。また、まちづくり活動に携わる人々が集う地域まちづくりフォーラムでは、中学生・高校生が学校を代表して成果を発表するなど、地域と密接に関わり合いながら、学校ごとに特色のある学習に取り組んでいます。

学びの場は、学校だけにとどまらず、地域と協働で学校運営を進める「コミュニティスクール」や小中学生の学習を地域で見守る「らくらく勉強会」など、こどもたちが楽しみながらふるさとへの愛着を育む、湖南省らしい地域ぐるみの教育が広がっています。

生涯学習分野では、スポーツ指導者の育成、文化芸術の体験機会の充実、文化財の保存・継承など、地域や関係団体が連携・協働して取り組むべきことが多くあります。そして、これらの課題は、若い世代の社会参画の機会として捉えて取り組むことで時代に合った魅力的な取組となり、活動の裾野の拡大が期待されます。そのためには、公共や地域企業との連携などにより、若者が集い・交流する場として利用したくなる、そして、若者自身が発信したくなるオープンスペースの創出が求められています。

湖南省では、だれもが夢のあるライフスタイルの実現を支えあうとともに、10年後の未来を見据え、多様な世代が気軽に憩い、交流が生まれる「人の輪が広がる居場所づくり」など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいます。

とりわけ、①地域協働、②生涯学習・生涯スポーツ、③文化創造の3つを重要な政策テーマに据え、「学校と地域が協働して豊かな人間性と地域への愛着を育むまち」、「地域に根付く歴史や文化が次の世代に継承されるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。

2. まちづくりの目標

●めざすまちの方向性

- ・ 学校と地域が協働して豊かな人間性と地域への愛着を育むまち
- ・ 地域に根付く歴史や文化が次の世代に継承されるまち

■市町別国宝の指定件数（有形文化財）

	自治体名	件数
1	大津市	36
2	長浜市	6
3	湖南市	4
4	彦根市	2
5	甲賀市	2
6	野洲市	2
7	甲良町	2
8	竜王町	1
9	愛荘町	1
	合計	56

国宝数は県内3位

長寿寺本堂
常楽寺本堂、常楽寺三重塔
善水寺本堂

出典：滋賀県

2022年（令和4年6月29日）時点



長寿寺本堂



常楽寺本堂、常楽寺三重塔



善水寺本堂



小中学生の学習を地域で見守る
らくらく勉強会



●重要な政策テーマ

政策テーマ5-1：地域協働

◆若者の社会参画の促進

地域への愛着や誇りを醸成する意味でも、異なる年代とのふれあい、交流による青少年の健全育成、将来の地域づくりの担い手を確保・育成する意味でも若者が地域のまちづくり活動に参画することは重要です。

湖南省では、多様な主体との連携による地域活動の創出や未来の創造をめざすSDGs未来都市の推進の一環として「こなんSDGsカレッジ」を創設し、次世代を担う若者を中心に、多様なキーパーソンとともに、さまざまなまちづくり活動の体験やプロジェクトにチャレンジをしてきました。

主体的な学びの一環として地域づくり活動への参画の機会や場を設けるなど、若者が主体的に継続してまちづくりに参画できる仕組みづくりを進めます。



こなんSDGsカレッジ生が企画した市内4中学校の交流プロジェクト

◆人の輪が広がる場づくり

湖南省では、6箇所のまちづくりセンターと4箇所のコミュニティセンターが各地域に配置され、地域のまちづくり活動などの拠点となっています。気軽に集い、思い思いに好きな活動をすることができたり、仲間と交流したり異なる世代の人とふれあうきっかけとなるような場所が求められています。

地域のコミュニティ施設や拠点的な公園内のスペースを有効活用し、便利で快適、魅力的な空間づくりに向けて民間事業者との連携も検討するなど、市内各所に人の輪が広がる場があるまちづくりを進めます。



2. まちづくりの目標

政策テーマ5-2：生涯学習・生涯スポーツ

◆生涯学習環境の充実

湖南省では、市民が社会や地域の魅力、課題についての学びを深め、その力を発揮し、地域社会における多様な担い手になることをめざし、生涯学習の機会を提供するとともに、学びの成果を地域に生かせる仕組みの構築を図っています。

生涯学習活動参加のニーズは時代とともに内容が変化しながら高まっており、指導的役割を担う人財を確保・育成し、いつまでも学ぶ意欲にあふれる人がいきいきと輝くまちづくりを進めます。

◆教育プログラムの充実

湖南省では、デジタルツールを活用した教育に取り組むなど、これからの時代を生き抜く力を身につけるための特色のある教育を進めています。

「生きる力」を伸ばす特色ある教育プログラムの充実、指導者のスキルアップなど、こどもが意欲的に学びに取り組むまちづくりを進めます。

デジタル改革（DX）に対応する機器の導入や校舎など施設の老朽化対策、安全確保など安心して学ぶことができる環境づくりを進めます。



ICTを活用した教育

◆スポーツ環境・拠点の充実

余暇の充実や健康づくりへの関心から、運動やスポーツの重要性が高まっています。湖南省では、月1回のKONANスポーツデー（体育館開放事業）や湖南省のスポーツイベントの運営・実施に係る協力、スポーツ出前講座を実施しています。また、健康づくりへの関心の高まりから運動やスポーツの重要性が増す中、



市内のスポーツ施設や学校体育施設には、老朽化した施設が複数あります。これらの施設の計画的な修繕、だれもが利用できるようにユニバーサルデザインの考え方に基づく改修、ニーズの変化に合わせた機能の充実を進めます。

全天候型施設を求める市民の声への対応、近隣市町との広域連携による特色のある施設の相互利用にも取り組むなど、楽しく快適に運動・スポーツに取り組むことができる環境づくりを進めます。

◆図書館機能の充実

蔵書の充実をはじめ、こどもが読書に親しむ機会や生涯学習機会の充実と情報提供など、市民が気軽に図書館を訪れ快適に利用してもらえるよう、利便性やサービスの向上に向けた検討を継続し、世代を問わず、心の健康にもつながる居場所となるような図書館の機能充実を進めます。

政策テーマ5-3：文化創造

◆歴史文化遺産の保存・継承と活用

市内には、国宝湖南三山をはじめとする有形・無形の文化財、歴史的な文化遺産が多数あります。地域の人口減少や高齢化などにより、一部でこれらの歴史文化遺産の適切な保存・継承が困難となる問題が生じています。

将来世代への責任として、これらの貴重な歴史文化遺産を適切に保存・継承していくためにも、湖南市の内外に広く価値を発信することが重要です。

歴史的建造物の周辺の景観形成や芸術文化活動との連携による魅力のPR、映像や調査などによる記録保存をはじめ、資料や調査成果の公開・活用などにより、先人が残した歴史文化を受け継ぎ、責任を持って未来へ引き継ぐまちづくりを進めます。

◆文化芸術活動の振興

2023年度（令和5年度）から文化ホールを湖南市が直接運営しており、多くの来場者に楽しんでいただいています。

文化ホールの長寿命化を図るとともに、来場者が快適に利用できる環境づくりを進めます。

また、まちのさまざまな場所に文化芸術活動の発表の場を設けることや、文化芸術に関わる指導者や若年層の人財の発掘・育成の支援を行うなど、市民にとって身近で創造的な文化芸術を振興します。



2. まちづくりの目標

●まちづくりの目標6

明日を拓く仕組みをつくろう

～効率的・効果的な行財政システムと人づくり～

少子高齢化および人口減少の進行を前提とした効率的かつ効果的な行財政運営を実現するために、デジタル技術の最大活用はもはや不可欠な課題となっています。コロナ禍の影響によってさまざまなデジタル技術の社会実装が進みました。キャッシュレス決済や非接触、リモートでのコミュニケーションなどを支えるデジタル技術の有用性が社会全体に浸透し、市民生活、企業活動、行政サービスの各領域において、今後、よりいっそうデジタル化の推進による効率化と利便性の向上が求められています。

そうした中、市民が市政情報を入手する主な手段は、今もなお「広報こなん」や自治会・町内会の回覧板となっています。電子申請サービスでは諸証明の利用が多く見られた一方で、電子申請サービスができることを知らない、または方法が分からない市民もいます。このため、電子申請サービスなどの周知を図るとともに、デジタル技術を活用し、市民の利便性向上および事務の効率化を推進し、その成果として生じる資源を人財育成やきめ細かな対応を要する業務へ再配分し、行政サービスの質的向上を図ることが求められます。

また、国道1号の4車線化、JR草津線の複線化、広域幹線道路整備など、広域的な諸課題への対応には、これらの課題を共有する周辺自治体との連携が不可欠です。現在、県内8市による自治体クラウドシステムの共同利用が進んでおり、今後も課題に応じ最適な広域枠組みを検討し、連携を一層強固にしていきます。

このようにして、湖南市では、だれもが夢のあるライフスタイルの実現を支えあうとともに、10年後の未来を見据え、「競争に耐えうる行政システム」と「質の高い人財育成」など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

とりわけ、①行財政改革、②広域行政を重要な政策テーマとして、「デジタル技術の導入による行政事務の効率化や施設の最適化、利便性が高くきめ細かな行政サービスが提供されるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的・計画的な行政運営を進めていきます。



●めざすまちの方向性

- ・ デジタル技術の導入による行政事務の効率化や施設の最適化、利便性が高くきめ細かな行政サービスが提供されるまち

●重要な政策テーマ

政策テーマ 6-1：行財政改革

◆自治体DXの推進

行政サービスにおいて以前から電子申請の拡充を図るなどデジタル化の取組を進めてきましたが、コロナ禍を経て、社会の広範囲においてデジタル技術を活用した非接触・非対面のサービスが浸透しました。

電子申請の一層の拡充やキャッシュレス対応など、窓口サービスの改革とその周知により市民の利便性向上と業務の効率化を一体的に進めます。

市民が優先的なデジタル化推進を求めている医療の充実および危機管理体制の整備に対応するとともに、デジタル技術を活用して、公共施設の利便性および稼働率の向上と施設管理の効率化を両立するなど、市民満足度の高い行政サービスのデジタル化を進めます。

◆財政の健全化

総人口の減少、生産年齢人口の減少などにより歳入の根幹である市税収入にも影響を及ぼす可能性があります。

効率化による経費の削減、国・県補助金の確保のほか、企業版ふるさと納税や市有財産を活用した新たな財源の確保にも取り組み、歳入と歳出のバランスが取れた財政が健全で持続可能なまちづくりを進めます。



2. まちづくりの目標

政策テーマ 6-2：広域行政

◆近隣市町との連携

県内8市で自治体クラウドシステムの共同調達を行い費用の大幅な削減を実現しています。また、消防、衛生センター、公立甲賀病院など甲賀市との連携により効率的な行政サービスの提供を行っています。

J R草津線複線化や国道1号4車線化、野洲川の河川改修など、隣接する甲賀市や栗東市との連携により広域的な課題の解決に取り組んでいます。

加えて、野洲市および竜王町とは、広域的な交通ネットワークの充実など共通する課題の解決に取り組んでいます。

人口減少や社会経済情勢の変化に伴うさまざまな行政課題に対し、公共交通や防災、人財育成などの広域的に対応すべきものについて最適な枠組みを検討し、広域的な課題を解決できるまちづくりを進めます。



第3部 基本計画



前期基本計画の基本目標

K P I（重要業績評価指標）		基準値	目標値 (2030 年度)
第1章 小規模多機能自治のまちづくり			
地域まちづくり協議会が主体となる協働事業の参加者数		39,160 人	51,692 人
湖南市防災士連絡会に所属する防災士数		283 人	374 人
夜間学級生徒数（5年間累計）		—	125 人
市民意向 調査にお ける満足 度※	湖南市版小規模多機能自治の推進 ※1	67.3%	73.2%
	外国人市民の地域定着、生活支援の充実 ※2	64.1%	70.0%
	地域まちづくりの担い手の確保 ※3	55.6%	60.7%
	人権尊重と恒久平和の追求 ※4	75.9%	81.7%
	ジェンダー平等の達成 ※5	66.3%	72.7%
第2章 自然を生かし、自然と共生するまちづくり			
官民連携によるE S G投資額		333,645,424 円	465,000,000 円
都市公園の再整備箇所数		0 箇所	3 箇所
1人1日あたりのごみ排出量（総量）		714 g／人・日	662 g／人・日
市民意向 調査にお ける満足 度※	こなんS D G s 未来都市の実現 ※6	60.4%	66.3%
	魅力的で個性的な拠点となる公園の充実 ※7	69.3%	72.9%
	自然環境・生態系の保全 ※8	72.9%	77.7%
	循環型社会の形成	73.9%	78.8%
	上下水道の整備	91.1%	93.9%
第3章 人と産業が集い、公共交通でつながるまちづくり			
J R 草津線（石部駅、甲西駅、三雲駅）乗降客数		5,632 人	6,146 人
コミュニティバス乗客数		263,000 人	316,000 人
製造品出荷額等 ※9		5,757 億円	6,195 億円
観光入込客数		608,320 人	670,000 人
市民意向 調査にお ける満足 度※	公共交通の見直し	18.9%	21.6%
	計画的な市街地・住環境整備 ※10	62.8%	67.5%
	道路網・河川の整備	50.5%	54.1%
	農林業の振興	56.3%	62.1%
	工業の振興	58.7%	64.9%
	商業の振興	39.4%	44.3%
	観光の振興	44.4%	49.7%
	雇用の促進と勤労者福祉の充実	48.0%	53.8%

※基準値は総数から「どちらともいえない」「無回答」を除いた数に対する「満足」「まあ満足」の割合

※1 「市民主体のまちづくりの推進」

※2 「多文化共生のまちづくり」

※3 「特色あるふるさとづくり」

※4 「すべての人の人権尊重の推進」

※5 「男女共同参画の推進」

※6 「エネルギー・経済の循環による活性化の推進」

※7 「身近な公園・緑地の整備」

※8 「環境の保全」

※9 基準値は2023年（令和5年）経済構造実態調査の値

※10 「市街地・住環境の整備」



K P I（重要業績評価指標）		基準値	目標値 (2030 年度)
第4章 こどもが主役の、生涯健康で安心に暮らせるまちづくり			
地域子育て支援事業（つどいの広場や子育て支援センター）の利用者数		11,900 人	12,300 人
産後ケアの利用人数（5年間累計）		418 人	935 人
健康寿命 ※11		男性 79.02 歳 女性 81.37 歳	男性 79.49 歳 女性 81.86 歳
市民意向 調査にお ける満足 度※	子育て環境の充実	65.2%	70.9%
	教育環境の充実 ※12	63.6%	69.4%
	高齢者福祉の充実 ※13	50.5%	56.0%
	障がいのある人への生活支援サービスの充実※14	58.3%	64.3%
	健康づくりの推進	74.6%	80.2%
	医療環境の充実 ※15	56.2%	59.7%
	持続可能な地域共生社会の実現 ※16	54.6%	60.4%
	危機管理体制の強化 ※17	53.6%	59.1%
安全な地域づくりの推進		61.9%	67.6%
第5章 市民文化を築き、はぐくみ、伝えるまちづくり			
スポーツイベントへの参加者数		14,704 人	19,410 人
歴史・文化財・芸術展などへの参加者数		867 人	1,145 人
図書館入館者数		—	93,000 人
市民意向 調査にお ける満足 度※	若者の社会参画の促進	44.0%	49.8%
	生涯学習環境の充実, 教育プログラムの充実 ※18	47.7%	53.7%
	スポーツ環境・拠点の充実 ※19	63.1%	68.3%
	歴史文化遺産の保存・継承と活用	68.0%	74.0%
	文化芸術活動の振興	60.4%	66.6%
	人権教育の推進	68.6%	74.9%
第6章 効率的・効果的な行財政システムと人づくり			
経常収支比率		88.0%	90.7%
電子申請化率		11.2%	70.0%
市民意向 調査にお ける満足 度※	自治体D Xの推進 ※20	58.2%	63.9%
	財政の健全化 ※21	40.5%	45.7%
	近隣市町との連携 ※22	41.4%	47.5%

※基準値は総数から「どちらともいえない」「無回答」を除いた数に対する「満足」「まあ満足」の割合

※11 基準値は 2022 年（令和 4 年）の要支援・要介護認定者などの基礎数値から算出

※12 「就学前教育・学校教育」

※14 「障がい者の自立支援の充実」

※16 「地域福祉の推進」

※18 「社会教育の推進」

※20 「情報ネットワークの構築」

※22 「広域連携の推進」

※13 「高齢者の自立支援の充実」

※15 「医療の充実」

※17 「危機管理体制の整備」

※19 「スポーツの振興」

※21 「効率的な行財政運営の推進」

前期基本計画の見方

政策

まちづくりを実現するための政策目標

第1章

1. 湖南省版小規模多機能自治の推進

施策1 小規模多機能自治の推進



これまでの取組

地域まちづくりフォーラムの開催などを通じた地域との意見交換や地域まちづくり協議会への担当職員による支援、交付金の適正化などコミュニティプランの実現に向けた支援を行ってきました。

めざす姿

市内4箇所の中学校区を生活圏域としてサポートする体制、連携の形を確立していきます。地域主体の特色ある地域づくりへの支援がされ、地域まちづくり協議会が中心となって地域が自らできることに主体的に取り組んでいます。

実施方針

- 小規模多機能自治センターの整備（4中学校区の拠点の確立）
- 市民と行政の協働の推進
- 地域まちづくり協議会の活動促進

施策2 地域コミュニティの活性化



これまでの取組

地域代表者会議や研修会を通じて区・自治会運営の先進事例を学んできました。地域まちづくりフォーラムの開催などを通じて、若い世代との対話に取り組んできました。一方で、地域の帰属意識や連帯感が薄れつつあり、区・自治会の加入率の低下、地域コミュニティの希薄化が進みつつあります。

めざす姿

こどもから高齢者まで全ての世代が地域づくりに関わり、世代間交流を通じて将来の地域づくりの担い手が育まれる環境が整っています。

実施方針

- 地域コミュニティプランによる主体的な地域づくりに向けた協働、助言
- 地域の担い手となる若い人財の育成支援
- 地域課題への関心を高めるための情報提供や学習機会・伝統行事などへの支援

施策

施策毎に名称・これまでの取組についての説明、めざす姿、今後の実施方針の姿を整理

SDGs

施策に関連するSDGsアイコンを掲載

第1章 小規模多機能自治のまちづくり

～湖南省みらいものがたり Episode 1～

「今度、夏祭りのときに、友だちと中学代表で発表することになったよ」

娘の結菜（ゆいな）が、得意げに言った。

中学1年の探究学習で、結菜たちのグループが考えたまちづくり企画が校内で最優秀賞をとった。そして湖南省の夏祭りで、その成果を発表するブースを担当することになったらしい。

沙織（さおり）は、夫と結菜の3人家族で、この春、湖南省に引っ越してきたばかり。初めは不安もあったけれど、近所の人たちはみな温かく声をかけてくれ、すぐに馴染むことができた。

夏祭りの会場では、小学生が目をきらきらさせながらヨーヨー釣りに夢中。ステージでは、高校生たちがダンスパフォーマンスで観客をわかせている。子育て世代は進んで運営に協力し、シニア世代はこどもたちの安全を優しく見守っていた。

みんなで共に進める仕組みをつくろう

そんな中、結菜が友だちと楽しそうに来場者に笑顔で説明している。

「私たちは、地産地消のレシピ開発を企画しました」

その姿を見て、沙織は思わず胸が熱くなった。

「昔は自治会って堅苦しいイメージだったけど、まったく変わったわ」

こどもからお年寄りまで、自然と手を取り合い、笑顔でつながっている
——まさにこのまちの魅力は、そこにある。

—10年後

結菜は県内の大学を卒業し、地元の企業に就職。沙織は今、40～50代の住民たちとともに、夏祭りの運営の中心を担っている。

今年は中学生と企業のコラボ商品「いしべえ丼」が出店予定で、湖南省のNEWソウルフードとして注目を集めている。結菜も就職先企業の体験ブースを担当することになった。沙織は会場の準備をしながら、親子で夏祭りに関わる不思議な縁を感じ、10年の日々をなつかしく振り返った。

※この物語は、第三次湖南省総合計画ワークショップの“みんなでつくる将来のまちの姿”をモチーフに描いた物語です。実在の人物や団体などとは関係ありません。

第1章

1. 湖南省版小規模多機能自治の推進

施策1 小規模多機能自治の推進



これまでの取組

地域まちづくりフォーラムの開催などを通じた地域との意見交換や地域まちづくり協議会への担当職員による支援、交付金の適正化などコミュニティプランの実現に向けた支援を行ってきました。

めざす姿

市内4箇所の中学校区を生活圏域としてサポートする体制、連携の形を確立していきます。地域主体の特色ある地域づくりへの支援がされ、地域まちづくり協議会が中心となって地域が自らできることに主体的に取り組んでいます。

実施方針

- 小規模多機能自治センターの整備（4中学校区の拠点の確立）
- 市民と行政の協働の推進
- 地域まちづくり協議会の活動促進

施策2 地域コミュニティの活性化



これまでの取組

地域代表者会議や研修会を通じて区・自治会運営の先進事例を学んできました。地域まちづくりフォーラムの開催などを通じて、若い世代との対話に取り組んできました。一方で、地域の帰属意識や連帯感が薄れつつあり、区・自治会の加入率の低下、地域コミュニティの希薄化が進みつつあります。

めざす姿

こどもから高齢者まで全ての世代が地域づくりに関わり、世代間交流を通じて将来の地域づくりの担い手が育まれる環境が整っています。

実施方針

- 地域コミュニティプランによる主体的な地域づくりに向けた協働、助言
- 地域の担い手となる若い人財の育成支援
- 地域課題への関心を高めるための情報提供や学習機会・伝統行事などへの支援

施策3 中間支援組織の検討



これまでの取組

地域まちづくり協議会では、持続可能なまちづくりをめざし、まちづくり団体などとの協働により、地域特産品の開発やちょこっとカフェなどのコミュニティビジネスを進めてきました。

めざす姿

NPO、ボランティア組織、企業のほか福祉、商工業などの団体が連携し、地域に根ざしたコミュニティビジネスを展開することで持続的なまちづくりが展開されています。

実施方針

- あらゆる主体との協働による地域まちづくりの推進
- 人財育成や専門家との協働によるコミュニティビジネスの充実

施策4 幅広い層の市民参画の促進



これまでの取組

グループワークを取り入れた対話型のタウンミーティングの開催や市長への手紙などにより、対話を通じて市政への理解を深めてきました。各種行政計画の策定過程にパブリックコメントを実施することで、市政への参画機会を設けてきました。

めざす姿

若者を含め幅広い世代が、タウンミーティングや各種委員会・審議会に参画し、市政に意向が反映されています。

実施方針

- 幅広い世代からの市政に対する意見・提案機会の拡充
- 各委員会・審議会の公募委員の確保

施策5 行政からの情報公開の拡充



これまでの取組

情報公開室を設置し、各種行政資料の公開を行いました。湖南省ホームページや湖南省メール、湖南省公式ソーシャルメディアによる情報発信に取り組んできました。

めざす姿

庁内各課から市民にとって有益で魅力的な行政情報が多様な媒体によって発信され、だれもが気軽に必要な情報にアクセスできるようになっています。

実施方針

- 行政情報の自主的・積極的かつ迅速な公開
- パブリシティに対する全庁的な意識向上
- 行政情報の拡充

第1章

2. 地域防災の推進

施策1 地域の自主防災組織の充実



これまでの取組

地域の自主防災組織の設立、防災訓練などの活動を推進するため、支援の制度を整えてきました。

めざす姿

日頃からの住民の防災に関する取組が活発になり、身近な地域の防災力が向上し、災害発生時においても、だれ一人取り残されない安心が確保されています。

実施方針

- ふるさと防災チームをはじめとした地域の自主防災組織の充実
- 防災訓練・研修などの充実による防災意識の高揚
- 「向こう三軒両隣」のコミュニケーション強化

施策2 防災体制の確立



これまでの取組

区・自治会単位での自主防災組織の設立を促進し、身近な地域の防災力向上を支援してきました。

「消防団」や「湖南省防災士連絡会」など専門性の高い部隊との連携強化に取り組んできました。

めざす姿

消防団、防災士、消防署など防災に関わる関係主体の連携体制が中学校単位で確立され、地域の防災体制がより強固なものとなっています。

実施方針

- 関係主体のネットワークの構築
- 「消防団」や「湖南省防災士連絡会」による専門部隊の体系化

施策3 避難所の機能の充実



これまでの取組

防災出前講座、避難所開設・運営訓練などの実施により、防災意識の向上を図り、地域の避難所運営体制の強化に努めてきました。

避難所の開設・運営の課題点などについて関係者間で情報共有するため、意見交換会を開催してきました。

めざす姿

女性や要援護者などの視点が入り入れられた地域の避難所運営体制が確立され、だれもが安心して避難できます。避難所にも安心して避難できるよう避難体制や物資の提供体制などの準備が整っています。

実施方針

- 地域の避難所運営体制の整備

3. 地域福祉の推進

施策1 地域福祉体制の充実



これまでの取組

少子高齢化や一人暮らし世帯の増加が進む中、地域の困り事を自分事と捉え、地域でまるごと支える仕組みづくりを推進してきました。

めざす姿

地域の困り事に関する情報プラットフォームが確立されており、関係主体間が連携し、困り事の解決にスムーズにつながっています。

実施方針

- 多様な相談内容から支援につなげる重層的体制の整備
- 関係主体間の情報の共有

施策2 住民主体の地域福祉活動の促進



これまでの取組

地域まちづくり協議会ごとに地域支えあい推進員が設置され、地域課題の取りまとめや解決方法の検討などがなされてきました。

ボランティアセンターが実施するボランティア育成事業の広報を行ってきました。

めざす姿

地域住民と地域支えあい推進員が連携して安心できる居場所づくりなどの地域福祉活動が活発になっています。

実施方針

- ボランティア人財、ボランティア活動の周知とマッチング
- 地域の居場所や相談できる場づくり

4. 外国人市民の地域定着、生活支援の充実

施策1 コミュニケーションの支援



これまでの取組

通訳職員や窓口職員が、外国語および「やさしい日本語」を活用して外国人市民のニーズに対応してきました。庁舎や保健センター、まちづくりセンターにタブレット、自動翻訳機を設置し、多言語化への対応を進めてきました。

めざす姿

適切な通訳や窓口職員による「やさしい日本語」、デジタル機器の活用などによりコミュニケーションが円滑に行われています。

実施方針

- 適切な通訳と「やさしい日本語」の全庁的な周知・活用の推進
- AIコミュニケーション機器の拡充
- 多言語での湖南省の各種情報などの発信

施策2 安心できる生活の支援



これまでの取組

湖南省一元的外国人相談窓口を設置して、さまざまな相談に対応してきました。依頼に応じて、外国人技能実習生への生活オリエンテーションを行い、日本での生活や防災について通訳者を通して説明を行ってきました。広報こなんやごみカレンダーなどを翻訳し、情報提供を行ってきました。

めざす姿

湖南省一元的外国人相談窓口が周知され、外国人市民のさまざまな不安の解消、問題の解決につながっています。こどもから高齢者まで全ての世代が地域づくりに関わり、世代間交流を通じて将来の地域づくりの担い手が育まれる環境が整っています。

実施方針

- 地域コミュニティに溶け込みやすい環境づくり
- 文化の違いによる地域問題の解決支援の促進

施策3

異文化コミュニケーションの充実



これまでの取組

関係機関と連携し、異なる文化についての学習や交流の機会づくりの促進と啓発を行ってきました。関係機関や地域の活動と連携し、外国人市民が参画し、交流できるイベントを支援・周知してきました。

めざす姿

日本人も外国人市民も同じ地域社会でともに生き、ともに支えあうという意識がさらに醸成され、多文化共生社会が実現しています。

実施方針

- 相互理解を深める異文化コミュニケーションの促進
- 多文化共生に向けた学びあいの機会の創出
- セントジョンズ市をはじめ海外との親交を通じた人財育成の推進
- 関係団体との協働による多様な交流事業の推進

第1章

5. 地域まちづくりの担い手の確保

施策1

多様な主体のつながりの形成



これまでの取組

地域まちづくりフォーラムでの地域まちづくり協議会の活動、こなんSDGsカレッジや市内の中学生・高校生による事例発表など、地域との意見交換を行ってきました。

めざす姿

NPOや地域まちづくり協議会などのまちづくり活動団体同士が連携しながら交流・体験を実施し、若い世代を中心とした人財が育まれています。

実施方針

- 市民・団体間のネットワークの構築
- 市民活動の活性化や継承に対する支援
- 若い世代を中心とした人財育成の機会創出

施策2

ふるさとへの愛着づくり



これまでの取組

ふるさと納税やこなんSDGsカレッジ修了生によるプロジェクトなど、地方創生に関する制度を活用しさまざまなシティプロモーションを実施してきました。

めざす姿

若者やものづくり人財（経営者・職人など）が活躍し、さまざまなまちづくり活動が創出されています。

実施方針

- ふるさと応援人口の拡大
- ふるさと納税などを活用したシティプロモーション
- 地域や教育機関との協働による主権者教育の推進
- 産業界や教育機関との連携による先導的な取組の促進

6. 多様な市民が参画する仕組みづくり

施策1 移住・定住の促進



これまでの取組

移住定住サイトを活用した情報発信や移住相談会における湖南市の魅力のPR、結婚新生活を支援してきました。

めざす姿

湖南省への移住を検討している人のそれぞれの段階に応じた支援が整備され、移住者の増加につながっています。

実施方針

- まちの魅力の情報発信・相談支援の強化
- 移住の受け皿となる体制整備・支援の充実
- 地域とつながる体験・交流の支援
- 結婚に関する支援・若者に向けた情報発信

施策2 関係人口の創出



これまでの取組

空き家活用やテレワーク、コワーキングスペースなどの整備により、関係人口の増加を図ってきました。

めざす姿

第2のふるさとづくりとして、関係部署や民間事業所などとの連携により、地域の人財を活用した新たな交流の場が創出されています。

実施方針

- 第2のふるさとづくりの受け皿となる環境整備
- 地域人財などを活用した新たな交流の場の創出

7. 人権尊重と恒久平和の追求

施策1

人権尊重の徹底とあらゆる差別の撤廃



これまでの取組

人権尊重の理念の浸透と差別の撤廃に向け、関係機関と連携しながら、人権教育・啓発事業を展開し、家庭・地域・学校・園・企業における人権意識の高揚を推進してきました。

めざす姿

部落差別をはじめ、障がいのある人、子ども、女性、高齢者、外国人などに対する人権侵害や差別に対する基本的な知識や理解・認識が深まり、人権尊重が徹底されています。

実施方針

- 人権意識の高揚に向けたあらゆる差別に対する関係機関と連携した啓発活動の推進
- あらゆる差別に対する相談体制の強化
- 正しい理解・認識と実践につなげる人権学習の機会・内容の充実
- 湖南省学校・園人権教育基底プランによる内容の実践
- 地域総合センターによる支援活動の充実
- 企業内人権のきめ細かな啓発、研修の推進
- 企業の自発的な取組への支援

施策2

相談体制の充実



これまでの取組

部落差別、外国人差別、障がいのある人への差別、虐待、いじめ、DV、ハラスメント、ストーカーなど、人権に関わる相談が多様化しており、相談に的確かつ迅速に対応して被害者保護や早期解決を図るため、関係機関・団体などと密接な連携による取組を行ってきました。

めざす姿

だれもが利用しやすい相談窓口が設置され、多様化する人権相談に対応し、市民の立場に立った相談が行われています。

実施方針

- 関係機関・団体などの多様な相談窓口との連携による総合的な相談体制の強化
- 相談員の育成
- 相談窓口の周知

施策3

「非核平和都市宣言」の啓発



これまでの取組

2005 年度（平成 17 年度）に、あらゆる国の核兵器の廃絶を訴え、人間の尊厳を守り、基本的人権の尊重と恒久平和を求めるため「非核平和都市宣言」を宣言しました。2009 年度（平成 21 年度）に平和首長会議に加盟し、平和に関する啓発活動に取り組んできました。

めざす姿

戦争体験者の体験の語り継ぎが次の世代へと継承され、戦争の惨禍を風化させることなく、後世に世界平和実現の願いが引き継がれています。

実施方針

- 平和啓発の推進